平成　28　年度

# 1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 4790100079 | | |
| 法人名 | 有限会社ヘルスサポート | | |
| 事業所名 | グループホーム若狭の家 | | |
| 所在地 | 沖縄県那覇市若狭3F | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年11月14日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年2月20日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100079-00&PrefCd=47&VersionCd=022 |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 株式会社　沖縄タイム・エージェント |
| 所在地 | 沖縄県那覇市曙2丁目10－25　1F |
| 訪問調査日 | 平成28年12月26日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個別にて利用者の希望をスッタフが情報収集し情報を共有することによりその方に合った活動を支援している。また日々の生活の中で利用者一人ひとり生活歴や残存機能力を生かし（臨床美術を取り入れている）屋内だけでなく屋外まで広い視野で行うよう心掛け　毎月の行事は、季節に添った計画や、地域のイベントへ参加しているまた、地域交流室の利用者サークルの方々から誕生祝いに踊って頂いたり、地域の保育園生の誕生会への招待や小学生によるおやつ作りなど地域、家族のご協力を頂き、行事を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体医療法人のもと、同一法人の事業所間、医療機関と連携が密で家族や職員も安心して支援できる環境である。昨年ステップの項目、目標達成計画に沿って、長期、短期の目標を明確にして個別の介護計画となり、改善が確認できた。食事を3食事業所で調理し利用者も買い物やトレイ拭き、味見係りと出来る範囲で参加、職員も一緒に同じ食事を摂っている。おやつ作りを通して地域の小学生と交流している。事業所周辺の散歩を継続して地域の方と顔見知りになり、今年の目標の遠出の外出を計画実施して社会見学、気分転換に繋げている。臨床美術に取り組み、利用者が生き生きできる活動、環境作り、職員の個性を大切にしている。職員個々に年間目標を掲げ振り返りや事業所勉強会は担当者が進行し、課題の学習資料を作成する事で職員個々のスキルアップに繋げている。

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | ○ | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | ○ | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | ○ | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

確定日：平成　29年　2月 11日

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | その人の生活が継続出来る様なケアを心掛けるよう生活環境や生活リズムをできる限り変えないような対応を行い、受容的支持的態度で接することが出来るよう（職員へ一年の目標を立てることで理念の共有を行っている。 | 本人らしい生き方を念頭に、申し送り時に職員は理念を唱和して共有、確認している。開設当初に策定された理念の継続で、職員、利用者や介護度も変わり（現状の理念でいいのか）、管理者は話し合い（見直し）の必要を認識している。 | 職員等と話し合い、事業所の状況の変化によって現状にあった理念を策定することに期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域や自治会への積極的なアプローチにより住民に関心を持ってもらい自治会の行事の参加や小学生からのおやつ作りなどをおこなって頂き核家族で（おじちゃんおばちゃんに）接することが出来ない子供達にプラスとこなる交流が続いている。 | 自治会長や民生員から情報収集し、地域の行事に参加、文化祭には職員が草刈りやテント張りを協力している。事業所周辺を散歩時に挨拶を交わしたり、保育園の訪問やゆんたく会に参加して交流している。管理者は地域ネットワーク会議に参加している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地元自治会のネット会議でグループホームの内容や目的、機能等をお話し、理解して頂けているよう努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回運営推進会議を開催しホームでの出来事を伝えるとともに家族からの要望、運営に活かすよう努めている。 | 小規模と合同の推進会議で行政、利用者、家族、地域代表参加の基、年6回開催している。会議では事業所の状況、事故、ヒヤリハット報告、意見交換をしている。議事録は、職員には閲覧の声かけ、委員には配布、送付は行っていない。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の職員とは、必要に応じて密接に連携を取りながら運営している。 | 行政担当者とは運営推進会議やグループホーム連絡会、地域ネットワーク会議で情報交換し、連携している。家族から「サービスについての不満」の苦情に家族、行政担当者も交えて話し合い解決した事例がある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ミティングを通じてスタッフ全員が身体拘束をしないことを理解している。玄関ドアに施錠しないで鈴の音で解るように取り組んでいる。 | 管理者、職員は法人での研修に参加し、身体拘束をしないケアの理解を深めている。日常生活の中で上から目線の時もあり、管理者は、言葉による拘束、行動の制限等、ミーティングで事例を取り上げて話している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 悪い言葉遣いや無視、介護放棄等虐待であることを会議の中で話し合い、入職時オリエンテーションで説明し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護事業や成年後見制度について理解を深める様努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書面をゆくっり読みながら、説明し随時問い合わせにも対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関のご意見箱を設置し気軽に活用するように話掛け、面会時に時間の余裕があるときは、話させて頂いている。 | 利用者からは直に聞いたり、表情等やボードを使って意思や思いを聞く機会としている。家族からは運営推進会議や面会時に声をかけて意見や思いを引き出す機会とし、「災害時の事業所の避難場所は？」と災害に対する不安な声が聞かれる。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 事業者の勉強会などで職員の意見や提案を反映する機会を設けている。その内容によって法人内の会議に提案している。 | 毎月のミーティングや申し送り等で、個別に意見を聞いている。今年の目標の外出支援は近場から遠出に繋げることが出来た。「洗濯機購入してほしい」「職員を増やしてほしい」の意見は、管理者が参加する法人の会議に提案している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の勤務状況を確認しながら公平に判定するようにし、向上心を持って働ける職場環境に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 所内で月1回の勉強会を開催している。定期的な法人内研修や外部研修の受講を推奨している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域包括支援センターや法人内の事業者と連携をとり情報を共有し合い那覇市のグルーホームや県グループホームの集まりで情報を収集サービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者の生活歴を把握し利用者本位のケアを心掛けている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族から本人の性格、好みや生活ぶりについての情報聞き家庭での生活との継続性を重視して受入れを行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族が必要とするサービスについて、聞き取り、連携が取れるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の出来る事をお願いし出来ない事を職員が支援し一緒に支えあいなが馴染みの関係作りをしながら関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 積極的に行事に参加して頂ける様に心掛けている。面会にいらしゃる時は、家族との一体感が失なわれないようにする。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 外出時に馴染の場所へ立寄ったり友人の来訪時には、昔の話に耳を傾けるように心掛けている。 | 地域社会との関係性は、家族や生活の中で本人から情報を得て把握に努めている。宗教仲間の来訪や友人来訪等があり、途絶えると管理者が電話でお願いしている。馴染みの場をドライブ時に立ち寄ったり、正月、清明祭、お盆に帰宅や外泊して家族、親族との関係を大切にしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の性格を把握し気の合った者同士の席を決めている。孤立にならないよう声掛けをしレク参加など利用者同士交流が持てる様にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用終了後も介護サービス等の情報交換を行うなど、支援しています。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人の意思に沿えるように買い物、散歩、運動レクリエーション等を実施している。 | 利用者の思いはアセスメントや生活の中で直に聞いたり、ジェスチャーやボードを使って把握に努めている。困難な場合は表情や仕草等を参考に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人様の、生活歴やサービス利用歴を把握するよう努め、スッタッフに周知している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人ができること等、現状把握に努め、自立を支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のモニタリングと定期的のサービス担当会議にて現状の把握を行い、必要な計画を立てる。 | 担当者会議に本人、家族も参加し事前にかかりつけ医に確認して開催している。3か月毎のモニタリング、見直しを行い退院後の随時の見直しも実施している。昨年ステップの長期、短期の目標を明確にして個別の介護計画となっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の利用者の状態は申し送りで情報を共有している。毎月の定例会などで話し合い、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の状況に応じた柔軟な支援に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ネット会議への参加する事により包括や民生委員と協力関係ができ課題などを話し合い本人が心身の力を発揮出来る様努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月2回の定期診療と月2回の個別訪問診療とを連携をしている。看護師から得た情報は、常に現場に申し送りしている。 | 利用者全員が協力医をかかりつけ医として、利用者7人は訪問診療を受診している。他科受診は家族対応としているが、必要に応じて職員が同行、送迎を行っている。受診時は、受診依頼書を事前にFax等で医療機関に情報提供し、結果は返書を医師からもらっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 法人内の看護師、協力医療機関の看護師と連携している。看護師から得た情報は常に現場に申し送りし共有している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院先の医療機関から毎月利用者の現状について情報を得ている。また、その家族との連絡もとりあっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご本人ご家族に終末期についての考え伺いご希望に添えるよう医療との連携を図り体制を整えています。 | 法人の方針として、事業所での看取りについては実施しない方針である。看取りをされる場合は、法人内の病院と連携・紹介等で配慮している。職員は、看取りについての外部研修等を受講している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人内研修で応急手当の方法を学んでいる。所内でも独自の勉強会を行い情報の共有をしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ネット会議にて市の防災課の職員を交えて利用者の避難方法について学んでいる。12月17日には、防災訓練を予定している。 | 併設施設と合同での夜間想定の自主訓練1回、昼間想定で消防立ち合いの下での消防訓練を2回実施している。事業所での備蓄に関しては、食料品・水3日分は準備している。訓練時に地域の協力願いをしていない為協力は得られていない。 | 消防訓練に家族・地域住民の参加、協力が得られるような取り組みが望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 居室へ訪問の際のノックや羞恥心に配慮した声かけを行っている。 | 職員は、法人内研修で接遇マナーを学び、利用者一人ひとりにゆっくりと言葉をかけたり、個々のコミュニケーション能力に合わせて、ジェスチャー、ボード等を使い言葉をかける対応などを心がけている。また、管理者は職員の言葉かけや対応が気になる時は注意するようにしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 個別の時間を作り会話をするようにし利用者の気持ちを引き出すように心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースに合わせ、コミュニケーションを図りレクリェーションへの参加を強制しない等利用者の希望を尊重して支援いる。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 整容出来ない方は、こちらかの声掛けを行い出来ない部分を支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事作りは、職員で行うがメニューの要望を入所者から聞き入れ、野菜の下ごしらえ、トレイ拭きなどに参加している。 | 食事は、利用者の要望や食材を見ながら献立を決め、3食事業所で調理している。利用者は、野菜の下ごしらえやトレイ拭きなどに参加している。職員も利用者と同じ食事を摂っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランス考慮すると共に、キザミ、トロミ、食器類にも気を配っている。水分表も作り水分補給に心がけています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎日口腔体操をおこなっている。食後は、必ず口腔ケアを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | そぞれぞれの利用者の排泄パターンを把握し声掛け誘導に努めている。最後まで出来るだけトイレでの排泄を目標としている。 | 排泄は、チェック表を利用し声をかけながら日中は、全員トイレ排泄を支援している。夜間は、オムツ・パット使用の方がいるが、大方はトイレ排泄の支援である。排泄時は、下半身をバスタオルで覆いかぶせて羞恥心に配慮している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食物繊維、乳製品、水分の摂取の難しい方は、手づくりぜり―などを提供している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 定期で決めているが本人が希望すれば毎日でも入浴できるよう支援している。 | 入浴は、週2回で午前中の実施を基本とし、回数や時間帯は利用者の希望に沿って行われている。全員が一部介助である。浴室への移動時・入浴中はタオルで覆う等、羞恥心にも配慮している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の運動に心がけ一人ひとりの習慣や体調に合わせて支援している。温かい飲み物や足浴なども心掛けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の支援を行っており服薬に関する勉強会を開催し内服に関して理解に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴を理解し本人に合った支援に努めている。飲酒願望のある方は、ノンアルコールビールで対応し、出来るだけ楽しみを提供出来るようにしています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者の買い物の支援や、散歩したり年間行事の中にもジャスコへ買い物（全員）参加外出が好きな利用者には家族と外出し外食をなさり協力を頂いています。 | 外出に重点を置いた支援を行っている。毎日、事業所周辺の散歩や買い物等を支援している。また、季節の花見、遠出のドライブ等を計画し気分転換を図っている。家族にも協力を得て外食等を個別に支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の買い物への同行など、希望がある方に支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば支援を行っています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 室内の換気や空調の管理等。証明の明かるさに気を配り、季節の花を飾るように心掛けています。 | 事業所は3階にある。居間兼食堂は、利用者の席近くに厨房があり、食事作りの音・匂いが食欲をそそる環境である。日中、利用者は居間で寛いでいて、壁などには利用者の作品が掲示されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂にて他者との交流をしたり、一人になりたい時居室に戻り過ごされる等。思い思いに過ごしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人、家族に相談し、実際に使った物を持ち込んで頂くようお願いし、過ごしやすい環境作りに努めている。 | 居室はすべて洋間で、入口にはドアと暖簾の二重になっていてプライバシーが確保されている。ベッド・タンスが設置されていて、宗教関連の物や家族の写真等が持ち込まれている。転倒予防のため、床の上にマットを敷くなど利用者の状況に合わせて生活を支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 自立した生活が出来る様手すりの設置やマークをつける等の工夫しており、安全な環境を心掛けている。 | | |